



# 愛隣幼稚園..... 園だより ..... 13. 6月号

## “お母さん” やってます！

毎朝の「おはよう」の時間は、私の大好きな時間です。幼稚園中の子どもたちとお家の人たちに会うことができる唯一の時間だからです。子どもたちからも大人たちからもエネルギーをもらっています。そろそろ梅雨入りも近づいていますが、気持ちのいい晴天が続いていました。外で遊ぶには最高の季節です。Rちゃんを送って帰っていくお母さんの傍らにはRちゃんの弟と妹。「今から公園です！午後もお姉ちゃんを迎えに来て、そのまま夕方まで公園ってことよくあるんですよ。」私もそんな生活をしてきた記憶があります。合間に家事をこなすのですが、夜、子どもたちが寝てくれるまでは自分の時間がありません。その時も「唯一、トイレに入っている時だけが1人の時間よね。」と笑い合いました。お母さんの奮闘を笑いに換えてねぎらってみたのですが、頭が下がる思いでした。

近頃世の中は<待機児童>をどうやって“ゼロ”にするかということがやたらと話題になっています。横浜市がたった3年でこの目標を達成した！ということも大きなニュースになっていました。子どもがいても働きたい、働かなければならないというお母さんたちがいるからには、早急にこの問題は解決しなければなりません。そのことにはなんら意義を唱える気持ちはありません。(ただし保育の質には問題があり、そのことには納得がいきませんが。)しかし、働くお母さんばかりにスポットが当たりすぎではないでしょうか？幼児期の子どもたちとの生活を大切に考え、積極的に子育てをしているお母さんたちや、日本の幼児教育を担い支えてきた幼稚園は忘れられているかのような雰囲気です。ちょっと待って下さい。365日年中無休の“お母さん”という仕事に奮闘していることもきちんと評価してほしいと思います。“お母さん”の1日は、その日のうちに目に見える成果や利益を生み出す訳ではありません。でも、“お母さん”がしている子育てを、愛隣幼稚園は尊い仕事だと考えています。応援しています。

生まれて間もない赤ちゃんは、親に守られなければ生命を維持することもできません。それからしばらくの間、身体的な自立に至るまで、“お母さん”は必須の存在です。しかし、いればいい・面倒をみればいいというだけに止まりません。子どもと“お母さん”の間には、よい信頼関係・愛着関係が築かれることが必要です。お腹が空いて泣くとおっぱいをくれて、空腹を満たしてくれる人。おしっこが出て気持ち悪くなったオムツを替えて、すっきりさせてくれる人。怖いと感じた時に、しっかりと抱きしめて安心させてくれる人。その人はいつも自分を見て、話しかけ微笑みかけてくれる。その人がいれば安心、大丈夫、大好きな人。それは“お母さん”。この愛着と信頼の関係があれば、子どもたちは自分をいいと思うことができます。人を信じることができるようになるのです。私たちは人から愛されなければ、「あなたは大事」と思ってもらわなければ、自分を好きになることも、人を大事に思うこともできないのです。目には見えないのですが、子どもたちが人として生きていく上で重要な部分を、“お母さん”が育んでいます。やがて、幼稚園に入り子どもたちの世界は広がります。“お母さん”はおっぱいをあげることも、オムツを替えることもなくなります。でも、子どもたちのエネルギー補給基地であることに代わりはありません。おいしいご飯でエネルギー補給をするのはもちろんですが、大海に漕ぎ出した子どもたちの心にも“お母さん”のエネルギー補給が欠かせないのです。SOSは言葉にならないかもしれません。表情や仕草に表すのがやっとのこともあります。頑張る元気がなくなったり、不安の中にいる子どもの気持ちに寄り添い、「大丈夫！安心して行っておいで」と送りだしてあげられるのは“お母さん”です。そうして送りだされた子どもたちは、自分を肯定的にとらえ自信を持ちます。さらに、仲間が信頼で結ばれることを心地いいと感じる子どもになります。その子どもたちが未来を担っていくのです。

『“お母さん” やってます！』と私たちは胸をはって言いたいと思います。子育ては尊い仕事です。だから本当は、大人の都合で手を抜いてはいけません。目には見えないけれど大事な根っこを育てているからです。